

国内における実験用サル類の繁殖・供給体制の確立について

日本霊長類学会は、創立以来一貫して、野生サル類の保護に強い関心をもつとともに、サル類の実験用動物としての利用についても検討を加えてきた。

本学会第 5 回大会においては、シンポジウム『国内における実験用霊長類の現状と問題点』が開催され、人類の健康・福祉の維持・増進のために実験用サル類が重要な役割を果たしていること、その利用については野生の保護に十分留意して行うべきこと、さらにまた、繁殖、供給体制の確立が野生の保護のためにも実験用動物としての質の向上のためにも必須であることが、共通の認識として確認された。

日本霊長類学会は、これらの基本的な認識に立って、以下の 4 点を第 5 回大会声明として、関係機関および広く社会に公表し、これらの早期実現を要望する。

- (1) 野生由来のサル類の医学・生物学的研究および医薬品試験等への利用は、野生サルの保護に対する十分な配慮のもとに行われるべきである。
- (2) 実験用動物としては、人為的に繁殖・育成されたサル類を使う方法をとるべきであり、このために大規模な繁殖・育成の施設をつくる必要がある。
- (3) サル類の大規模繁殖・育成は、多額の経費を要するとともに、付随的に遺伝子保存や基礎研究等を必要とするため、その事業の確立と推進には、国家の政策的、財政的支援が必須である。
- (4) 上記 3 点の早期実現の一環として、既存の実験用サル類関連の機関・組織は、サル類のより有効な利用のために、外部に開かれた柔軟な施策の樹立・推進に努力し、必要に応じて改組・拡充を行うべきである。

1989 年 7 月 25 日

日本霊長類学会